

講義名	現代世界史		
担当教員	小野 達哉		
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2
<b>主題と概要</b> 第一次世界大戦後から現在にいたるまでの20世紀世界史について概説する。20世紀とはどのような時代だったのか。また、21世紀とはどのような時代になっていくのか。本授業では、激動の世紀であった20世紀のうち、第一次世界大戦以降の世界の動きを概観するとともに、当該時代の中心問題について論ずる。			
<b>到達目標</b> 現代世界史の基本的な流れを理解する。 第一次・第二次世界大戦の背景、東西冷戦構造、ポスト冷戦などの現代史の基本問題を理解する。 20世紀世界史が、現代の世界とどのように結びついているのか、考察できるようにする。			
<b>提出課題</b> ・毎回授業中に小テストを実施する。			
<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b> 毎回の授業時におこなう小テストで、学生の講義の理解度を確認し、それに必要に応じてコメントを付けて返却する。ただし、受講生の人数が多数に上った場合は、テスト返却が不可能になることを予めお断りしておく。			
<b>評価の基準</b> 毎回授業時の平常点と、期末試験の総合評価とする。			
<b>履修にあたっての注意・助言他</b> この講義は予備知識は必要としないので、その点は安心して受講してきてよい。それでも、受講に不安を感じている学生は、世界史の教科書か参考書を何か1冊、授業に持参してくるとよい。なお、新型コロナウイルス感染症の状況によりシラ(シは修正される可能性がある)。			

<b>教科書</b> ・使用しない。				
<b>プリント資料及び参考文献</b> 講義ではプリント資料を配布する。 参考文献は授業中に随時紹介する。				
<b>授業計画</b> 1 現代史とは何か 2 第一次世界大戦 3 つかの間の年報 4 ヒトラーの台頭 5 第二次世界大戦 6 冷戦の始まり 7 ソウエトとスターリン 8 ベトナム戦争 9 1968年 10 冷戦終結 11 中華人民共和国 12 ポスト冷戦 13 イスラエルの建国 14 テロとの戦い 15 まとめ				
<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>				
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク		
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク		
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）				
<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b> 【第1回～15回】 予習：前回の講義時に示した授業のキーワードを辞書等で調べておく（120分程度）。 復習：プリントの見直し、空欄の穴埋めを確認する。返却を受けた小テストを解き直す（120分程度）。				
<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b> 全学対象の教養科目であるため、「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身に付けておくべき資質・能力」(1)～(5)の習得を目指す。				
<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b> 授業は学生に随時発問しながら進めるが、特段ICTを活用することはない。				
<b>実務経験の有無及び活用</b> なし				
<b>備考</b> 受講に当たり、予備知識はとくに必要としないが、日本史・アジア史・西洋史など現代史に限らず、歴史全般に興味をもってほしい。				